

日本海洋科学振興財団

海外渡航費用援助 報告書

2019年 8月 31日

氏名 酒井 秋絵

所属機関(院生は大学院と研究科名)

九州大学大学院 総合理工学府 大気海洋環境システム学専攻

職名(学生は学年) 博士後期課程1年

渡航期間 2019年7月28日-2019年8月3日

渡航先* シンガポール

渡航目的とその成果、感想

1. 渡航目的

ルソン海峡における内部波とそれに伴う混合に関する発表を行うため、シンガポールで開催されたAsia Oseania Geosciences Society 16th annual meeting (AOGS) に参加し、発表を行いました。

2. 成果

7月28日、日曜日に関西国際空港からシンガポールのチャンギ空港に移動し、会場周辺のホテルまで移動し、宿泊しました。7月29日から8月1日にかけて、AOGSで海洋に関するセッションがあったため、学会会場に朝から夕方まで滞在し、他の研究者の発表を聴きました。8月1日の夜にチャンギ空港に移動し、8月2日未明の飛行機で福岡に帰りました。

7月31日の早朝のセッションで私は発表を行い、Robin Rbertson博士とSungHyun Nam博士が私の発表を聞き、質問をしてくれました。特に、Robin Rbertson博士には、今後の解析の進め方を教えていただけたほか、今回発表した内容の論文の添削をしていただけたことになりました。指導教官や、国内の研究者には指摘してもらえないことのなかった点を教えてもらえました。また、AOGSでは、学生が自分と同じ分野の研究者と話す機会を提供する「Meet the expert」というプログラムが前回の学会から行われています。私は事前に、「Meet the expert」への参加を希望する旨を伝えており、大会期間中に海洋物理分野の2名の研究者と、このプログラムを通して面会できました。日本国外における卒業後のキャリアパスについて相談することができました。

3. 感想

学会期間中、日本国内の大学に所属している日本以外出身の学生と交流ができました。彼らは、留学や国外ポストへの就職に意欲的なため、国内学会よりも国際学会に頻繁に参加していました。また、バンケットなどで他の研究者と話すときにすべき話題や、アピー

ルすべきことを教えてもらえました。今後、学会に参加する際、他の研究者とどのようなことを話すか考える際に、非常に参考になると思います。

Meet the expertプログラムで準備された会場で、研究者と英語圏出身の学生と3人で、研究について議論しました。その際、私は伝えたいことを表現するのに時間がかかってしまいました。日本人が多い環境では、英語によるコミュニケーションであっても情報伝達速度に問題を感じたことはありませんでしたが、英語を得意とする研究者同士となって初めて語学力向上の必要性を感じました。

今回の学会参加を通して、日本国外のポストを視野に入れている若手研究者の過ごし方を見聞きし、実績の重要性と備えるべきコミュニケーション能力の程度がわかりました。今後の学生生活を通して、国際的に活躍のできる研究者を目指していきたいと思います。